

Intense Pulsed Light (IPL) 治療

— 術後成績 & 満足度向上の新たな手段 —

2021年6月27日(日) 8:00~9:00 東京国際フォーラム 第6会場 ガラス棟5階「G510」

座長



市川一夫 先生

医療法人いさな会中京眼科 視覚研究所

『多焦点IOLとIPL治療』

演者1 岡義隆 先生 医療法人先進会 岡眼科クリニック



近年、米国のガイドラインでも、白内障手術や屈折矯正手術周術期でのドライアイに関する対策の重要性が指摘されている。特にドライアイは加齢による影響が大きいことから、白内障手術適応年齢と一致する事が多く、実臨床でも白内障術後に視力は良好であるにも関わらず「なんだか見にくい・かすむ・見えたり見なかったりする・違和感がある」という不定愁訴を訴える症例をしばしば経験する。このような不定愁訴とドライアイの関係性が明らかになる中で、多焦点IOL術後の不満を減らし患者の満足を得るためには、徹底したドライアイ対策が必要である。このドライアイに対する唯一の根本的治療がIPL治療であり、現在我々の施設での多焦点IOL術後の不満対策として最も有効な切り札の1つになりつつある。本セミナーでは、実際に我々が行っている多焦点IOL周術期に行っているドライアイ対策と、IPL治療効果についてリアルなお話をしたい。

『なみだの秘密 -マイボーム腺の立場から-』

演者2 有田玲子 先生 伊藤医院



本セミナーに参加される先生方の多くは、術後の良好なQuality of Vision (QOV)をめざして、術前に眼表面を評価し、ドライアイ疑いやsub-clinicalなドライアイがあれば積極的にドライアイ用点眼を処方していると思います。それでもなお、原因不明の眼不定愁訴を訴える患者さんに頭を悩まされていませんか？“点眼では改善しないドライアイ”はマイボーム腺機能不全(MGD)に代表される、涙の脂に問題がある場合が多いのです。IPLは、涙の脂を改善し、涙液の量は変えずに涙液の質を改善します。本セミナーでは、MGDとはなにか、その根本治療となるIPLのメカニズム、国内外におけるIPLの多くのエビデンスをご紹介します。さらに、明日の臨床現場ですぐに役立つドライアイ診療のコツをお話する予定です。